

人権なら

2017年10月1日

第82号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

障害者・子ども課題をテーマに

第9回「差別と人権」研究集会で論議

第9回奈良県「差別と人権」研究集会が9月2日、田原本青垣生涯学習センターで開かれた＝写真。県内外から多くの人たちが参加。「津久井やまゆり園」殺傷事件や子どもの居場所作りなどについて活発に議論し合った。



山下力・副理事長が主催者あいさつ。梶田斉志・県くらし創造部部長と、森章浩・磯城郡町村会会長(田原本町長)が、それぞれ来ひんあいさつした。

香川明英・事務局長が基調提案。差別・排外主義が強まっている。人権が尊重される社会の実現に向けた取り組み強化に向け、活発な論議を呼びかけた。

長瀬修さんが講演「障害者の権利と人権」

記念講演は長瀬修・立命館大学客員教授(写真)が「障害者の人権と尊厳」の演題で話。「障害者」ってどういう人？「障害者」って誰？と問いかげ、「障害者」をどういう存在と考えるのか？が今日のテーマだ、と語った。



障害者権利条約は世界人権宣言に基づいて制定され、差別解消法の制定へとつながった。権利条約は障害者の障壁は合理的配慮によって取り除くことができること謳う。解消法は合理的配慮の不提供が差別と位置付ける。合理的配慮は障害者の権利だけでなく、

すべての人の権利を護ることになる、と話した。

地域で伸び伸びと生きられる施設を

午後は2つの分散会。第1分散会「サポートと共生」は、「津久井やまゆり園」事件は、私たちにいったい何を突き付け、何が問われたのか？がテーマ。障害者運動ネットワークの藤本隆二・代表がコーディネーターを務め、パネラー3人が問題提起。



ピープルファースト横浜の小西勉・会長は、やまゆり園の建て替え中止、小規模施設を求め県交渉。同ジャパンの中村清司・全国事務局長は「優生思想」と闘い、地域で伸び伸びと生きられる施設が必要。県「精神障害者」家族会連合会の奥田和男・理事長は監視強化の精神保健福祉法改正の廃案、を語った。

子どもが抱える課題を感じ取ることが大切

第2分散会「地域共同体と共生」は「子どもを孤立させず、育みを街ぐるみで生み出そう」がテーマ。NPO法人CASNの谷口久美子・理事長がコーディネーターを務め、パネラー2人が問題提起。



こどもソーシャルワークセンターの幸重忠孝・代表は「子どもの居場所づくりの必要性」。NPO地域支援センターの市本貴志・副理事長は奈良こども食堂ネットワークの結成と、子ども食堂で、子どもたちがどんな課題を抱えているのかを感じ取ることが大切、と発言。分散会のあと、全体会を再開。まとめを行った。

河合町人権学習講座が開講

初講は吉田栄次郎さん「法隆寺郷と被差別民」

河合町人権学習講座が始まり、第1回目が9月8日、町内にある豆山の郷であった。町民をはじめ、町職員も人権研修として参加した。町生涯学習課の杵本佳津さんが「人権問題を一緒に学びましょう」とあいさつ。講座は今年度もNPOなら人権情報センターが事業委託。同河合支局が企画運営する。全4回の開講となる。



この日は吉田栄次郎・天理大学講師が「法隆寺郷と被差別民 国符後声聞師と極楽寺隠亡」をテーマに話をした。次回に実施するフィールドワークの事前学習でもあった。この地域は多くの謎に満ちた「ミステリアスな場」として何度、訪れても、興味深い所だ。



法隆寺界隈フィールドワークを事前学習

藤ノ木古墳は斑鳩町法隆寺西里にある直径50m余り、高さ9mほどの円墳。江戸時代には「陵山」（みささぎやま）と呼ばれた。「陵の尼」（みささぎのあま）と呼ばれた女性が祭祀を営んでいたとの史料が残る。陵の尼は藤ノ木古墳の北方にあった国符後（大殿）という声聞師（しょうもじ）集落の住人と考えられるという。

国符後声聞師集落跡（大殿・小殿村）は江戸時代末期に消滅したが、鎌倉時代以降、江戸中期までの法隆寺の記録にしばしば登場する。平安時代末期には全国各地の史料に表れる被差別民衆で、寺院に隷属。占い、祓い、曲舞、万歳などに関わった。江戸時代に入ると万歳、神子、陰陽師、舞太夫などと呼ばれ、芸能系の被差別民に分化した。

国符後の声聞師は博士と称し、算置と言う占いをし、

大和国各地で久世舞を行ったことが史料に見える。

法隆寺西里（東里・西里・本町からなる門前郷の1つ）は法隆寺組大工の居住地。戦国時代に万歳城（現大和高田市市場）に本拠を構えた万歳氏一族の中井氏が16世紀、この地に移り、大工頭として活躍した、と伝えられる。

平安～室町時代は刑場だった極楽寺郷墓

極楽寺郷墓は平安時代から室町時代にかけて処刑場だった。郷墓を管理したのが「穩亡戸」と呼ばれる被差別民。ここには極楽寺村という隠亡集落があった。三昧聖とも言い、平安時代末期ごろから現れる。「三昧」は墓地。「聖」は半僧半俗の宗教者。遺体処理に関わったため、強い賤視を受けた。だが、他方で遺体処理に伴う布施や医業への関与などで富を蓄積。江戸時代には医者数を数多く輩出した。大和国には100カ所をこえる集落が存在。仲間組織もつくられていたという。次回のフィールドワークが楽しみである。

三宅町人権講座も開講

田中実さんが沖縄差別について話

三宅町人権講座（全5回）が9月21日にあった。初回のこの日は田中実・乃亜フレンドリーネットワーク代表（写真）が「なぜ沖縄の人たちは差別とのか」と題して話をした。

9月10日放映のNHKドキュメント「沖縄と核」、辺野古新基地



建設に対する抗議行動、6・23慰霊の日の集会などの映像・写真も紹介。資料として『沖縄から伝えたい米軍基地の話 沖縄県発行のQ&A』を示した。

「沖縄と米軍基地の歴史的側面」「沖縄基地の現状と日米地位協定」「米軍基地と沖縄県の経済、財政」「辺野古新基地建設問題（普天間移設問題）」についても説明。沖縄が抱える多くの課題を提起した。

話のあと、質問や意見も出て、論議し合った。

部落が抱える問題を論議

特措法終了15年の今、部落問題を考える

部落問題全国交流会が9月10日、京都市下京いきいき市民活動センター(写真)であった。テーマは「特措法終了15年のいま、部落問題を考える」。交流会は「都市部落では経済的不安定層の流入がますます顕在化している」と



状況に切り込み、「いま現在、部落が抱える問題について議論をしたい」と呼び掛けられた。

はじめに、地元崇仁で活動する山内政夫さんが「まちづくり」活動を紹介。京都私立芸術大学が崇仁の地に移転してくるこの取り組みも報告した。

続いて、3人が報告。報告1は友永健吾・部落解放同盟大阪・住吉支部長が「住吉地区の暮らしのアンケート調査から見てきたもの」。昨年11月実施の調査結果を紹介。①超高齢化問題②世帯収入の低さ③ひとり親家庭、特に母子家庭④若者の不安定就労状況と、「ニート」「パラサイト・シングル」⑤住宅率100%⑥同和行政撤退がもたらした課題、の説明は現状が浮き彫りになった感がして、興味深かった。

地域で見えてきた現実と数々の課題

報告2は住田育子さん(同住吉支部)が「住吉地区における流入者に対する現住者の感情」について説明。40年来、生活、活動を通して見てきたことや感じてきたことを①地区住民の構成②流入者に対する原住者の対応の特徴③流入者に対する反感や排除の具体例④住吉でいま、起こっている現住者と流入者の問題、に整理し、報告した。

地域の生活の様子や部落解放同盟の組織と運動が抱えてきた「リアルな現実」を見る思いがした。

報告3は柚岡正禎さんが「ヘイトスピーチ解消法と

部落問題ー在日差別と部落差別、ともに『両側から超える』をテーマに話をした。問題意識は「ヘイトスピーチ解消法の成立で差別扇動の一時的な押さえ込みは成功した。だが、問題の根っこにあるものは何も解決していない」。そのとき、参考になるのが、「両側から超える」という視点だ。

藤田敬一さんが『同和はこわい考』で提起した「部落差別の口実にされてきた(経済的な)実態的格差の是正にもかかわらず、その同和行政そのものの過程で、部落民側には新たに〈同和利権〉や〈同和不祥事〉などの負の現実(実態)が現れ、それを根拠に新たな部落差別が再生産されている」とした主張だ。

そして、「在特会」による「京都朝鮮学校襲撃事件」における京都地裁の街宣差し止め判決の「事実認定」を紹介。戦後日本に固有な「在日差別」。それをね返す在日の新しい運動として、「民統連交流会」(2002年)での李敬宰(イ・キョンジェ)さんの問題提起、「コリア系日本人」として生きよう、を紹介した。

このあと、石元清英・関西大学教授の司会で討論。議論は部落・部落民をめぐる論議が多く、報告内容までは深められなかった。だが、多くの刺激を受けた。

東吉野アートプロジェクト

東吉野の民家・公民館・寺や神社、滝や橋、庭園など12カ所で催されたアート展「東吉野アートプロジェクト」に8月末、行った。



案内をくれた東吉野中学の岩崎伸一・先生も作品を出展。チェーンソーで木を削って造った作品は荒々しい姿のものや、優しく佇んでいるものなど、さまざまな表情を見せ、丹生川上神社境内にマッチ。不思議な空間を感じた=写真。岐阜の片田舎で見た「円空の仏」を思い出した。竹内信市・博子さん経営の「わらび園」にも寄り、元気な顔に出会えた。

深刻な人権侵害の今を斬る

県市町村人権・同和問題啓発推進協がシンポ

第14回シンポジウムが8月10日、田原本青垣生涯

学習センターで
あった。県市町
村人権・同和問
題啓発推進連
絡協が主催した。



テーマは「これ
でいいのかネット社会 深刻な人権侵害の今を斬る！
～ヘイトスピーチ、部落差別の解消をめざして」。コー
ディネーターは大寺和男・県人権教育推進協会長。
パネラーは金尚均(キムサンギョン)・龍谷大学教授、
中井雅人・弁護士、中村恵・畿央大学講師の3人。

上田清・会長(大和郡山市長)のあいさつのあと、シ
ンポは始まった。大寺さんは、「森友」「加計」問題に
触れ、「詭弁がまかり通っている社会は不誠実な社会。
不誠実な社会は人権を粗末にする」と述べた。

「多様性を認めない社会は民主主義の自壊」

金さんは「ヘイトスピーチ」の概念や現状を話した。

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

突如、解散・総選挙となった。無茶が横行する
政治が続く。民意を汲もうともしない。国民を舐め
ている。この間、特定秘密保護法、集団自衛権の
行使容認、戦争法、共謀罪法のほか、森友、加
計、原発再稼働、辺野古新基地建設、9条改憲、
経済格差、不祥事議員続出など、数々の悪行が
跋扈(ばっこ)してきた。支配者は「今だけ、金だ
け、自分だけ」で蠢く。メディアも心許ない。これら
を許してきたのは我々だ。もう騙されてはいけな
い。一人ひとりが政治意識を高めることが大切。
将来世代に大きなつけを回してはいけない。今選
挙では、昨今の政治を変える投票行動を示そう。

ヘイトデモの映像を流し、ヘイトスピーチは「生身の人
間を傷つける。同時に、社会そのものを傷つける」。
「差異や多様性を認めない社会は民主主義の自壊」
と話した。ナチス政権のニュルンベルク法制定から瞬
く間にユダヤ人排斥が広がった。これは朝鮮学校の
無償化制度からの排除と同列。関東大震災における
朝鮮人大虐殺は歴史的証左だと、述べた。

差別助長する「全国部落調査」復刻出版事件

中井さんは、「示現舎」という出版社が『復刻 全国
部落調査 部落地名総監の原典』を出版しようとした
「全国部落調査」復刻出版事件の弁護に関わる。「全
国部落調査」は、中央融和事業協会が1936年に刊
行した報告書。全国の部落所在地、部落名、戸数、
人口、職業、生活程度などを記載する。1970年に問
題になった「部落地名総監」と同様、部落差別を助長
し、固定化する機能を有する。事件の概要を説明し、
出版差し止めの裁判闘争について報告した。

中村さんは「子どもとメディア」をテーマに話した。学
習指導要領改訂の方向性から見えてくるものとして、
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指
導を工夫」した幼児教育活動において育成すべき
資質・能力のイメージを示したうえ、「21世紀型スキル
の定義」「読み・書き・計算から探求・共有・表現へ」や、
保育におけるメディアの位置づけを説明。葛城福祉
園での取り組みを紹介した。

その後、会場からの質疑があった。しかし、テーマ
が絞り切れず、時間も少なく、討議は深まらなかった。
最後に、「わたしたちのくらしに役立つ真のネット社会
をめざす決議」を採択した。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/